

かたによって、家庭や職場で  
つらい思いをしている患者さ  
んも多いと思います」

そう、そもそも問題は、女  
性に卵子老化の知識がない  
ことだけではないのだ。

## 「男性不妊を治療できる医 師は四十数名しかない」

31才で結婚しました。私は、  
子供が欲しくてたまらなかつ  
たけれど、夫は「まあ、自然  
に任せて」とのんびり。でも、  
5年経ってもできない。私は、  
卵子が老化すること、高齢出  
産のリスクを知っていたので、  
夫に「一緒に病院に行つてほ  
しい」と頼みました。すると、  
「なんだ、おれに問題がある  
わけないだろ」とすね、子供  
の話題を持ち出すだけで不機  
嫌に。仕方なく、私だけクリ  
ニックに通い、タイミング法  
(排卵日を予測して性交渉す  
る)を試しましたが、半年経  
つてもできない。姑も子供を  
欲しがったので、とうとう夫  
もクリニックに来てくれました  
が、原因は夫にありました。  
精子の数が少なかったんです。  
その後、体外受精まで試しま  
したが、うまく着床しません。  
私の卵子も、夫がすねてる間  
に老化したかもしれないと思

うと悔しくて。(パート・境  
香織さん 仮名、38才)

前出の天川さんは、男性の  
協力がなければ不妊治療に取  
り組むことは難しいと語る。  
「不妊の原因の約半数は男性  
側にあります。しかし、なか  
なか検査を受けたがらないと  
いふ声は数多く聞かれました」

男性不妊の患者数は約50万  
人と考えられるが、男性不妊  
症の治療を行う獨協医科大学  
越谷病院泌尿器科教授の岡田  
弘さんによれば、日本では男  
性不妊を治療する医師が少な  
く、きちんと治療できる医師  
は四十数名しかない。また、  
卵子ほどではないが、精子も  
老化するという。

「35才くらいから、個人差が  
ありますが、精子も徐々に老  
化が始まります。妊娠させる  
機能が低下するのです。  
ただ、治療の技術  
自体は進歩していま  
す。今は無精子症で  
も、MDT-ESE  
(顕微鏡下で精巣か  
ら直接精子を取り出



内閣官房参与(少子化  
対策・子育て支援)吉  
村泰典さん。慶應義塾  
大学産婦人科教授、日  
本生殖医学会理事長。  
近著に「間違いだらけ  
の高齢出産」(新潮社、  
6月28日発売)。

ら直接精子を取り出

す」という手術で精巣から直  
接取り出し、体外受精も可能  
なのです(岡田さん)

しかし、世間の目を気にし  
て通院をためらう男性が多い。  
そういう男性にこそ、正しい  
知識が必要だと、前出・吉田  
さんが言う。

「そもそも、男性の場合は検  
査も痛みを伴わないものがほ  
とんどなので、女性よりも先  
に検査・治療に行くべきだと  
思います」

深刻な男性不妊や、男性の  
無理解もまた、卵子老化  
とそれによる不妊問題を引き  
起こしているのだ。

さらに、仕事の問題もあ  
る。仕事を覚えるキャリア形  
成の時期と、20代から30代前  
半までの妊娠適齢期は、ど  
うしても重なってしまうのだ。  
キャリアアカウンセラーの上

田晶美さんは、38才の既婚女  
性に「派遣から転職し社社員  
になり、そこで育児休暇を取  
りたい」と相談されて驚いた  
という。

「雇用が不安定なので、安定  
した職場で育児を取りたい気  
持ちはとてもよくわかります。  
しかし彼女には、『出産はリ  
ミットがあるので、子供が欲  
しければまずはそちらを急い  
だほうがいい』と伝えました。

仕事は、後からなんとかする  
方法を考えられますが、体の  
ことはどうにもなりません」  
雇用機会均等法の施行(86

年)で男性に負けまいと仕事  
に邁進してきた40代、超就職  
氷河期のなかやつと入社でき  
た会社や職を失うまいと必死  
の30代……。前出の漫画家・  
花津さんは言う。

「たとえ卵子老化のことを知  
つていても、20代で産もうと  
は思えなかったと思います。  
連載が続いていちばん仕事を  
していた時期ですし、自分  
ひとりですりでもできないのに  
結婚・出産なんてと考えると  
いました」

何も「バリキャリア」を目指  
している人ばかりではない。  
解消されない保育所の待機児  
童問題や、まだまだ職場に理  
働きたくても、働けなくなる  
恐れから、躊躇する女性も多  
いのだ。

しかし、いざ子供を授かる  
うとしても「卵子の老化」が  
立ちほだかる。そして、不妊  
治療を開始すると、今度は仕  
事との両立が困難になる。

「明日採卵しますと医師から  
言われたため、休暇を申請し  
たら、会社の上司から白い目  
で見られた」「不妊治療に対  
する偏見があつて、公にでき



NPO法人卵子の老化を考える会umi理事の森嶋さん。  
35才で早期閉経と診断され、体外受精などの不妊治療  
を行っている。http://ransinoroukaumi.jp/

## 43才まで。回数制限あり。 タブーじゃないフランス

女性の社会参画による晩婚  
化、晩産化は、何も日本だけ  
の問題ではない。WHOによ  
れば、世界でも1億8000